



伊豆市

議会だより

No.29

発行:伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集:議会報編集特別委員会
〒410-2413 静岡県伊豆市小立野38-2 TEL 0558-72-9906 2011.8.1発行



梅木^{うめぎ}水力発電所の水路橋(中伊豆地区)

明治44年(1911)に設立され、今もわずかながら発電をしている発電所の水路橋は、アーチ形にレンガを積み上げたもので、俗称「眼鏡橋」と呼ばれています。昭和5年(1930)の北伊豆地震により、本館建物などは大被害を受けましたが、この眼鏡橋だけは無事に残り、今も親しまれています。使われているレンガは、この近くにレンガ工場を造り製造されたものです。また、水路に使われている石は、柳瀬の馬場沢からレールを敷いて、トロッコで運ばれたものです。

目次 CONTENTS

■ 6月定例会の概要	2
■ 委員会審査	4
■ 5月臨時会の概要	5
■ 一般質問	6
■ 委員会活動報告	12
■ 9月定例会の予定	14

平成23年6月定例会

平成23年6月定例会が6月13日から30日までの会期（18日間）で開かれ、報告4件、補正予算7件、条例の一部改正2件を原案のとおり可決しました。また、議員発議による意見書1件と決議1件を、それぞれ採択しました。

報告

- ◆平成22年度伊豆市一般会計予算の繰越明許費の報告
- ◆平成22年度伊豆市公共用地取得事業特別会計予算の繰越明許費の報告
- ◆平成22年度伊豆市上水道事業会計予算の繰越の報告
- ◆専決処分^{せんけつぶん}の報告（交通事故に伴う和解及び損害賠償の額の決定）

補正予算

- ◆平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第1回）

人事異動による人件費の補正を行ったほか、瀧下橋^{たきした}（修善寺）駐車場整備のための土地購入費・工事費等の増額、天城北道路工事に関連し、市道を拡幅するための用地購入費の増額、修善寺グラウン

ド改修工事のための調査・測量等委託料の増額、高性能林業機械導入補助金の増額、駿河湾フェリー利用に対する市民への補助金増額など、歳入・歳出それぞれ1億8280万円を増額する内容。

- ◆平成23年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算（第1回）

- ◆平成23年度伊豆市介護保険特別会計補正予算（第1回）

- ◆平成23年度伊豆市簡易水道事業特別会計補正予算（第1回）

- ◆平成23年度伊豆市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1回）

- ◆平成23年度伊豆市湯の国会館事業特別会計補正予算（第1回）

- ◆平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算（第1回）

各特別会計の補正は、人事異動による人件費の増額または減額。

条例の一部改正

- ◆伊豆市職員の育児休業等に関する条例の一部改正

非常勤職員等のうち、育児休業の対象から除外する者について、規定する改正。

- ◆伊豆市天城温泉会館条例の一部改正

会館の一部に指定管理者制度を導入し、温泉事業廃止等を行うための改正で、名称は「天城会館」となる。

修正動議

定例会最終日、平成23年度伊豆市一般会計補正予算（第1回）に対する修正動議が議員発議で提出された。

提案理由は、「修善寺グラウンド3塁側のり面には、測量調査を必要とする緊急性は見られない」というもので、原案の調査範囲を縮小し、調査測量設計業務委託費900万円を600万円にするという内容。

この修正案は、質疑・討論ののち、賛成少数で否決された。

※修正動議とは

原案に対し、議員が修正を行うとき、提出する動議のことをいう。

一般会計の総額は
148億4,480万円
になりました



6月定例会の賛否状況一覧

件名	議決結果	鈴木初司	梅原泰嗣	稲葉紀男	森島吉文	松本 覺	西島信也	杉山 誠	内田勝行	関 邦夫	大川 孝	森 良雄	古見梅子	塩谷尚司	室野英子	飯田正志	鍵山堅一	飯田宣夫	三須重治	木村建一
平成23年度伊豆市一般会計補正予算(第1回)修正案	否決	○	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
平成23年度伊豆市一般会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市国民健康保険特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市介護保険特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市簡易水道事業特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市湯の国会館事業特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度伊豆市上水道事業会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
伊豆市職員の育児休業等に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊豆市天城温泉会館条例の一部改正	可決	○	○	×	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
浜岡原発の永久停止・廃炉を求める意見書	採択	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○
土肥こども園の津波対策に関する決議	採択	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○

※1 ○賛成 ×反対

※2 議長(杉山晃央)は、可否同数の裁決以外は、採決に加わらない。

「平成23年度伊豆市一般会計補正予算(第1回)」について
行なわれた討論は、次のとおりです

原案に対して《賛成の討論》

● ①職員の人件費が、予算編成時と新年度当初で異なるのは、当たり前。②修善寺温泉場の駐車場整備は、将来の温泉場のまちづくり、道路環境の整備が目的との趣旨に賛成する。観光客が訪れなくなり、また、市民が誇りに思えるような地域にしていくことが、道路整備を生かす分かれ目になっていると思う。③修善寺グラウンド改修工事調査測量設計業務委託について、市民が安心してスポーツできる環境づくりは必要。今回の提案根拠は、雨水などによるのり面の膨らみを防ぐ対策だと思ふ。必要な箇所を見極めた調査を期待する。

原案に対して《反対の討論》

● ①人件費の補正が行われる

ということは、当初予算がおかしいということ。②温泉場の駐車場は、将来、閑古鳥がいないことが予見できる。必要なのは駐車場ではなく、誘致事業である。③修善寺グラウンド改修工事調査測量設計業務委託の目的は、雨水に対する耐久性の向上である。モルタルの吹き付けは、劣化し亀裂もあるが、目地を埋めることで対応は可能である。基礎工事がずさんであったと思う。

修正案に対して《反対の討論》

● 平成20年の災害では、原状復旧のみの工事だった。3塁側のり面に予定されているボーリング調査が不必要だという根拠はない。調査をしてから工事の設計を組むべきで、修正案には賛成できない。

● 調査箇所を削るという修正案では、幅広い世代が利用する市民グラウンドとして、全体的な安全性の確保が危ぶまれる。

利用者の安全を確保することは重要かつ当然であるため、修正案には反対する。

議案 チェック

6月定例会の委員会審査で、
次のような質疑がありました

総務教育委員会

◆23年度伊豆市一般会計補正予算 (第1回)

問 修善寺グラウンド改修工事調査測量設計業務委託料について、3塁側応援席付近のり面は、20年の災害で土砂崩れがあり工事をしてあるが、今回、調査の必要があるのか。

答 災害復旧で行った部分には、調査が必要だと思われる箇所もありますので、対応せざるを得ないと思います。

以前から水が噴き出すことがあり、ブロックが押し出されてきている状況なども含めて、公の施設として、利用者の安全を確保しながら、スポーツの振興を図るため、調査をしたいと思います。

問 駿河湾海上交通利用促進対策補助金について、内容の説明を。

答 公共の足の確保とフェリー存続のための補助が目的で、期間は今年度限りです。

市民には、乗船時に申請していただき、割引後の金額をお支払いいただきます。その差額分を補助金として、市からフェリー会社に交付する予定です。

◆伊豆市職員の育児休業等に関する条例の一部改正

問 この改正で育児休業の対象となるのは、どのような職員か。

答 任期付職員以外の非常勤職員で、一年間勤務し、引き続き二年目も継続して雇用する時に出産した場合については、一年を経過した日から子供が一歳になるまで、育児休業を取ることができます。

福祉環境委員会

◆23年度伊豆市一般会計補正予算 (第1回)

問 難病患者等生活支援事業委託料の増額について、委託予定先はどこになるのか。

答 伊豆保健医療センター訪問看護ステーション「ひわまり」の予定です。中伊豆温泉病院にも、サービスの提供を依頼中です。

経済建設委員会

◆23年度伊豆市一般会計補正予算 (第1回)

問 天城北道路関連市道拡幅用地購入費について、設定価格の根拠は何か。

答 国土交通省が本線を購入する場合と同等の額で、1平方メートル当たり、宅地は3万円、田畑は1万円、雑種地は1万5千円、山林・原野は9800円です。購入に関する補助はありませんが、工事は、すべて国土交通省が行います。

問 瀧下橋たきした駐車整備のための土地購入費について、抵当権の付いている土地だが、あとで市が不利になるようなことはないか。

答 抵当権を抹消することが購入条件です。また、債権者不都合の場合は、買収はできないと考えています。

問 瀧下橋たきした駐車整備について、この事業の発端は何か。

答 いすゞ別館・湯の郷村が売却されるという話が広がったときに、温泉場まちづくり委員会や地元から、「他に買われるより、市有地にしてほしい」との提案がありました。

温泉場まちづくり委員会からは、以前より、温泉街の東側と西側に駐車場がほしいとの提案がされており、それらを含めての事業計画と理解しています。

◆伊豆市天城温泉会館条例の一部改正

問 一部に指定管理者制度の導入を考えるの条例改正とのことだが、業務委託という選択肢はないのか。

答 地方自治法の改正により、昔の施設を丸ごと委託することはできなくなっていますので、直営または、指定管理者制度のどちらからとなります。

劇場ホールと夕鶴記念館以外の区域について、指定管理者制度の導入を考えています。

5月臨時会

5月24日、平成23年第2回臨時会が開催され、補正予算1件、条例の一部改正1件を、原案のとおり可決しました。

補正予算

◆平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算(第1回)

修善寺地区に限定されている、営業温泉汚水の使用料について免除を行なうため、1400万円を減額するもの。

条例の一部改正

◆伊豆市下水道条例の一部改正

営業温泉汚水に係る使用料の特例措置として、23年4月から24年1月までに使用する分を免除するための改正。

5月臨時会の賛否状況一覧

件名	議決結果	鈴木初司	梅原泰嗣	稲葉紀男	森島吉文	松本 覺	西島信也	杉山 誠	内田勝行	関 邦夫	大川 孝	森 良雄	古見梅子	塩谷尚司	室野英子	飯田正志	鍵山 堅一	飯田宣夫	三須重治	木村建一	
平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算(第1回)	可決	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊豆市下水道条例の一部改正	可決	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	欠	○	○	○	○

※1 ○賛成 ×反対

※2 議長(杉山 晃央)は、可否同数の裁決以外は、採決に加わらない。

「平成23年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算(第1回)」について行われた討論は、次の通りです。

《反対討論》

・下水道行政の制度的な矛盾を解決しない上に、10ヶ月だけの免除では、是正にもならない。市全体の経済を支える上で、観光業全体が恩恵を受けるような補正予算を組むべきであり、反対する。

《賛成討論》

・市長の政治的判断に基づいての提案だと理解する。
今回の補正予算は、6月定例会に出されるであろう、その他分野への経済的な支援策の一部ととらえ、賛成する。

「伊豆市下水道条例の一部改正」について行われた討論は、次の通りです。

《賛成討論》

・伊豆市の下水道全般についての議論は必要だが、環境浄化に協力してきた修善寺温泉に対する、政治的判断だと承知する。



市政を問う

～一般質問～



6月定例会での一般質問は、6月16日、17日の2日間、15名の議員が36件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(質問順)

質問

原発事故と風力発電計画の方向性について

(森島 吉文議員)

東日本大震災が3月に発生し、地震、津波、原発事故(放射能汚染)などで、大きな被害が発生しました。

国もいずれは原子力発電から遠のき、自然エネルギー利用の方向になると思われれます。

浜岡原発の稼働停止なども考慮し、自然エネルギーの一部でもあります風力発電計画の実現、方向性、可能性について伺います。

市長 市答

伊豆市にふさわしい新エネルギーを検討する

風力発電については、西伊豆船原風力発電事業の計画がありますが、平成21年に地元地域から建設反対の書面が提出され、その後進展していません。環境省は、低周波の影響について、調査・研究に取り組んでおり、県は、伊豆半島における風力発電の振興策について、提言をまとめています。

現在は、この国・県の動きの行き先に注目し、また、様々な新エネルギー技術開発の動向を見ながら、伊豆市に最もふさわしい新エネルギービジョンの見直しを、検討していきたいと考えています。

質問

被災者支援システムの導入を

(杉山 誠議員)

「被災者支援システム」は、住民基本台帳のデータをベースに被災者台帳を作成し、被災状況を入力することで、罹災証明書の発行から、支援金や義援金の交付、仮設住宅の入住居等を一元的に管理できるシステムです。

災害時に円滑な被災者支援ができるようにするため、同システムの導入は極めて有益と考えますが、いかがでしょうか。

市長 市答

「被災者支援システム」の導入を進めます

今回の東日本大震災の教訓から、このような被災者支援システムの必要性は、市としても実感しているところです。

現在、デモンストレーション画面でシステム使用の仕方を確認しており、引き続き導入に向け、必要な機材等の経費を含め、被災者支援システムの導入準備を進めます。

質問

**市民が主役の町づくり、
地区委員会について**

(稲葉 紀男議員)

市長は、来年度の導入を目的に現在の区をまとめて小学校区を単位に、地区委員会を作り、これに大きな権限を与える検討を表明しました。良いことですが、委員の選出や運営の仕方によっては、真に地区の代表でない者が独走し、地域エゴや現在の区や議会との間で大混乱が起きる心配があります。時間をかけて皆で慎重に考えるべきですが如何ですか。

**長弁
市答**

**各区の皆さんとも、協議
を予定しています**

市民が主体・主役のまちづくりの基本原則を、どうやって市の行政に当てはめていくか、ということに尽きるかと思えます。

地区要望の実現の仕方を検討した結果、連合区程度の範囲で、独自に実施していただくことが、議会と市民のご要望に比べられることなのではないかと考えています。

構成員としては、町内会、子供会、老人クラブ等々の方たちで、市の下請け的な発想にならないように考えており、近いうちに各区の皆さんとも、協議の場を作りたいと予定しています。

質問

**牧之郷幼稚園の園舎を
女性会館に**

(室野 英子議員)

牧之郷幼稚園が「かしわくほこども園」に移行するので、取り壊される予定です。

園舎だけは女性会館として「生きがい友の会」等が利用できないでしょうか。

女性会員150名、25年の活動を続けている同会では、行政上の都合で活動拠点をたびたび移動させられ、現在の城山活動支援センターが、またも利用できなくなりました。

**長弁
市答**

**耐震性がなく、廃園後
は公園に**

城山活動支援センターは、私立かしわくほ保育園の仮園舎として使用させていただいています。利用されていた方々には、大変ご迷惑をおかけしていますが、この一年間だけです。牧之郷幼稚園の廃園後の利用については、園舎の耐震性が不足していることと、修善寺駅周辺整備事業で、公園として整備させていただく方向で考えています。

都市計画の中の公園として使うという見直しと、耐震性の問題の中で、ご要望にお応えできないことを、ご理解いただきたいと思います。

質問

**国民宿舎「中伊豆荘」
の売却について**

(内田 勝行議員)

中伊豆荘は昭和40年、県が大幡野(冷川)に建設。昭和63年に中伊豆町に移管し町営として運営してきました。バブル景気に支えられ順調に推移してきました。しかし、バブル崩壊後、徐々に業績が悪化。閉館せざるを得なくなりました。12月に県との5年間の契約条項が解除され、売却可能となるが、売却スケジュールがあるのか。また、売却条件は。

**長弁
市答**

**本年12月を目途に、提
案型の公募による売却**

売却スケジュールですが、本年12月を目途に、土地、建物、付帯施設を含めての、提案型の公募による売却を考えています。

また、使用目的につきましては、やはり観光振興に寄与する事業とすることが適当ではないかと考えていますが、募集要綱作成の中で、詳細を詰めていきたいと思えます。

質問

高齢者施設、誘致の
優遇について

(梅原 泰嗣議員)

近年、制度化された高齢者福祉施設に「住宅型有料老人ホーム」等があります。

この施設の経営は民間で介護保険の施設認定を必要としません。サービスの内容は、日常的な生活支援をし、介護が必要な方は介護保険を利用します。今後の高齢化社会を担い、また地元の雇用に貢献する施設になると考えますが、その誘致についての優遇措置と行政の見解を伺います。

長弁
市答地元として、雇用先にも
つながり、前向きに検討

企業誘致に関する県の優遇制度には、福祉制度を対象としたものではありません。住居地特例制度については、介護保険、医療保険制度に適用されている制度と承知しています。

住宅型有料老人ホームや健康型有料老人ホームは、この住居地特例制度の対象の施設になっていません。

そこで、新たな高齢化社会に適用することと、地元としては雇用先にもつながるといふことで、前向きに検討したいと考えています。

質問

土肥地域(海岸付近)の
高波対策について

(鍵山 堅一議員)

叫ばれ続けている東海地震。このような中、今年3月11日の東日本大震災の想像もつかない大津波を目の当たりに見て、地域住民は、なかなか進まない高波対策の早期建設を望んでいる。県に中に入ってもらい、話し合いも始めたようだが、進んでいるのか、進めているのか伺いたい。

長弁
市答なるべく早い着工を目
指します

平成21年1月に、屋形海岸整備検討会を立ち上げ、地元関係者との調整を図ってきました。

海岸への眺望や、海水浴場としての砂浜保存などの意見を踏まえ、平成22年度に県が作成した津波遡上のアニメーションと、防潮堤のシミュレーションを検討会に提示して、なるべく早く着工できるように、地元の理解と協力を得たいと考えています。

質問

津波対策を土肥支所長
任せでなく早期完成を

(関 邦夫議員)

住民と今までのような取り組みでは、時間ばかりが過ぎ、対応できないのではないかと。

逃げる時間がないとされている津波対策は、防潮堤が頼りだとされているのに、なぜ完成を急がないのか。過去千年において、土肥各地域の津波到達点の記録を調査してあるか。津波対策の構造物は津波に耐えられるか、再調査の必要について、伺います。

長弁
市答県のデザイン案を示し、
地元合意を進めます

地元においてある、デザインに対しての集約意見が、まだ示されませんので、県のデザイン案をなるべく早く提示して、それに対してのご意見をいただく方法を進めます。

過去千年の記録はありませんが、安政の大震災が参考になると考えます。

津波対策については、県の緊急総点検に対応して、伊豆市も見直しをしていきます。

質問

伊豆市小学校の再編計画について

(西島 信也議員)

教育委員会は、「小規模校は、人間関係の固定化やクラス替え、グループ替えができないところに教育上の大きな問題がある」という理由で学校再編を強行しようとしています。そこで質問します。

- ① 小規模校とは、学級数がいくつ以下か。
- ② 再編後にその学校がまた小規模校になった場合、再び再編しようとするのか。

長弁 教育答

再々編は、地理的な条件等も考慮して検討

クラス替えのできない学年のある11学級以下が、一般的に小規模校と考えます。

土肥地区については、再編成をした後も2クラスの学年はできませんでしたが、土肥南小学校の複式学級は解消できました。

再編後のことについては、学校の状況や地理的条件、通学の負担等も考慮した上での検討になると思います。

質問

伊豆市小学校再編計画の問題点について

(鈴木 初司議員)

天城地区校地選定について伺います。

伊豆市が発行しています防災マップによりますと湯ヶ島小、月ヶ瀬小は、広域の避難所になっていますが、狩野小は、土石流危険区域に指定されています。東海大地震が想定されている今、危険区域を、校地選定の場所に入れるのは適当ではないと考えます。教育長の見解を求めます。

長弁 教育答

校地選定要件要素のひとつ

狩野小の設置エリアは、土砂災害危険箇所と表示されています。

天城地区小学校再編成準備委員会において、再編校地の選定要素のひとつとなりますので、委員会にも資料を提示し、説明をし、いま協議しているところです。

質問

なぜ県道の地区要望を県に提出していないのか

(大川 孝議員)

県道修善寺天城湯ヶ島線の交通量は国道並です。雲金地内では、一刻も道路の拡幅整備を急ぐ危険な箇所があります。地区要望書は何回か今までに役員が市へ提出していました。3月14日に私は県交通基盤部道路局で調査したところ、嵩田下橋のみが要望され、他の道路要望はないことが判明しました。どうして地区要望書を無視したのか答弁を求めます。

長弁 市答

県土木修善寺支所に9月に提出済み

県は、修善寺天城湯ヶ島線の整備を、修善寺から天城方向へと進める方針です。

嵩田下橋は、あの道路で唯一、軽自動車同士でも止まる程、狭い箇所であり、危険と判断しました。

旭日橋の開通に伴い、県道を使い市山へ抜け、下田への交通量の増加は予想されます。

更に、雲金のところに工事用道路が入ります。再度、雲金及び佐野地区の皆さんのお話を伺い、真に集落のほうが優先ということであれば、見直しも必要と考えます。

質問

東海地震、津波災害対策の現状と計画

(松本 覚議員)

①防潮堤は万全ですか。屋形の堤は市が強い指導性をもって地元意見を調整し、早期建設を、また陸開閉に極めて不都合があり、管理者も不明確です。②避難所の整備において。全西浜区、小土肥浜区、小池、屋形、大藪、中浜の一部は高台がなく、避難路、建物の表示も未整備です。広域避難所(旧南小、土肥小)は海拔的に不適です。解決策を伺います。

市長
市答

なるべく早く着工できるように、理解と協力を

屋形地区には、防潮堤は必要であると決断し、屋形海岸整備検討会を立ち上げ、地元関係者との調整を図り、総意のまとめを行う事をしてきました。本年度は、なるべく早く、景観シミュレーション等をご提示できる検討会を、開催したいと考えています。

避難場所については、しっかり現場を見ながら、第一避難先、そして、中・長期的にと検討していきたいと思えます。

八木沢の陸開閉については、ご指摘のとおりですので、平素閉めていく方向で、早急に対応等を検討したいと思えます。

質問

小中学校の教室の猛暑対策

(三須 重治議員)

昨年の猛暑は、教室の気温を35度以上に上げ、不調に陥る子供も多数出たとのこと。土肥小は他校に比べ暑いとの理由で、昨年エアコンを入れたが、海辺は夏涼しく、冬暖かいが通説。土肥だけが暑い根拠など全くない。節電が叫ばれる今年、せめて冷風機を導入し、子供達の体調管理をすべきで、それが不公平な教育環境の是正と考えるが、如何か。

市長
教育答

教育環境の整備は、優先度に応じて順次対応

子供たちの教育環境を良好に保つ手段として、空調設備は必要かなと考えています。ただ、これについても、種々意見のあるのは承知しています。

空調設備以外にも、環境面で学校施設の整備改修を要する施設があります。

他方、先般の大地震による電力不足に伴う節電対策に、国民レベルで取り組んでいる今日の状況もあります。学校施設の教育環境の整備については、優先度の高いものから、順次対応していきたいと考えているところであります。

質問

小学校の統廃合にトラブルが発生しています

(森 良雄議員)

統廃合のスケジュールに変更はありませんか。統合のためのスケジュールよりも、どのように統合するのか、通学手段をどうするのか、学童保育はどうするのか、父兄との打ち合わせが先ではありませんか。

トラブルや交通問題をクリアしてから統廃合の時期を決めるべきではありませんか。それが常道ではありませんか。

市長
教育答

今後も周到な事前準備をして、進めていきたい

実施時期については、遅れることはありませんが、ルールに則り、今後も進めていく予定です。

地元、地域、保護者との話し合いを十分して、進めていきたいと考えています。

再編を進める過程で、再編成準備委員会では、地域サポート部会、学校運営部会、保護者サポート部会と分けて、それぞれの分担をしながら進めていくつもりです。

質問

安心安全なバス通学は、
実現できるか

(木村 建一議員)

保護者が望む安心安全な通学手段について伺います。天城地区の小学校が1校になった場合、バスの必要台数は7台から12台のことでした。

教育委員会は、バス会社がこの台数を走行させること。また、乗り換えのないバス運行を保護者は望んでいます。実現できると考えますか。

長弁
教育
教答

厳しい状況だが、期待
感を持っている

現在、再編校地が準備会にて協議中の状況です。見込み、予測の域でのお答えとなります。この時間帯のバスの運行台数については、バスの運行車両の台数が最も出ている時などを考慮します。厳しい状況ではないかと考えられます。

乗り換えのない路線の開設について、バス会社にこの案件の概要を打診した際の感触としては、可能性について全く否定的な対応ではありませんでしたので、期待感を持っているところです。

意見書

「浜岡原発の永久停止・廃炉を
求める意見書」(要旨)

浜岡原発は、予想される東海地震の震源域の真上にあり、「世界で一番危険な原発」との指摘がされている。「日本の大動脈・太平洋ベルト地帯」の真ん中での原発事故は、甚大な被害をもたらすことは明らかである。

今回の浜岡原発の運転停止は、一時停止で運転再開を前提としているが、「永久停止・廃炉」こそが最良の選択である。この機会に、日本の電力については、原発への依存はやめて、自然エネルギー活用への大転換を図ることが求められる。

よって、国においては、次の事項を確実に実行するよう強く要請する。

- 1 浜岡原発は永久停止・廃炉とし、電力の原発依存をやめ、自然エネルギー活用へ政策の大転換をはかること。
- 2 運転停止の浜岡原発の原子炉・使用済み燃料などを、安全に冷却する万全な対策をとること。

【提出先】 内閣総理大臣、経済産業大臣

決議

「土肥こども園の津波対策に関する決議」
(要旨)

6月8日に行った福祉環境委員会の所管施設調査において、東日本大震災の津波による被害を鑑みると、土肥こども園舎の鉄骨2階部分では、一時的とはいえ、避難施設としての機能がないことを確認した。

また、現状では、津波が来るまでの短時間に、避難場所である土肥中学校グラウンドまで、園児を引率・誘導することになっているが、それが危険であることも確認できた。

土肥地区の津波対策も考慮しなければならないことは承知しているが、乳幼児を預かる市の施設として、今後想定される地震や津波の際、最優先に避難場所を確保できる環境の整備が急務であるとの認識で一致した。

については、早急に土肥こども園内に第1避難場所の整備を行う等、津波に対する万全の備えを講じられるよう、強く要望する。

委員会活動報告

総務教育委員会

(実施日 5月31日)

学校再編成による新生「土肥小学校」が誕生してから、一年が経過した。

総務教育委員会では土肥小学校において、所管事務調査を実施したので、報告する。

学校での子供たちの様子として、「以前にも増して、生き生きとしている」との報告があったが、一方で、新たに生まれた課題のあることも事実であり、再編目標の一つでもある「クラス替えができる、2学級編成」にすることは叶わなかった。

しかし、その中でも、複式学級による変則授業を避けることができたのは、成果であると考えられる。

再編成の準備で行われた内装工事により、校内は明るくきれいになっていった。また、各教室にはエアコンが設置されたが、暑さ対策という点では、いずれの学校も抱える問題である。

今後も再編成と並行し、大きな議論の一つとなると思う。



▲改修された校内の視察



▲授業の見学

『平成23年度学校経営書』では、学校経営構想の重点目標を、お互いの「よさ」を見つけながら「学び合い 支え合い きたえ合い」とうたっている。

再編成を通して、すべての子供たちが、多くの友達と学ぶ喜びを感じてほしいと願う。

最後に、一年間という短期間で、様々な課題を克服し計画を達成できたのは、再編成の趣旨を理解し、協力してくれた、多くの方々のご尽力によるものだと感じた。

福祉環境委員会

(実施日 6月8日)

委員会構成が変わり、委員6名は、担当課の説明を受けながら所管施設10箇所を視察を行った。

実際に現場を見て、様々な課題を確認した。

①「修善寺老人憩の家」は、利用者が年間1万5千人を超えている。夏期の利用時間延長の要望が出ている。

②「中豆授産所」は、通所者24人。節電努力や作業姿勢に感動を受けた。



▲中伊豆保健センター「ちびっこサロン」



▲本柿木最終処分場

- ③「中伊豆保健福祉センター」の利用者は多く、有効利用されている。
- ④「さくらこども園」は、進入路が狭いのが問題。土曜保育を、中伊豆地区の3園合同で実施。
- ⑤「伊豆市清掃センター」の焼却炉は、今年も11月に1ヶ月をかけて補修する。広域のゴミ処理施設の早期完成を求めている。
- ⑥「本柿木最終処分場」のし尿浄化槽汚泥は、年間7500トンで、埋め立ては、あと5年可能。



▲土肥リサイクルセンター

- ⑦「土肥衛生プラント」は、老朽化は著しく、現在計画中の伊豆市し尿処理施設完成後、廃止を予定。
- ⑧「土肥リサイクルセンター」は、年間1822トン进行別収集。
- ⑨「土肥戸田衛生センター」は、二炉で交替運転。土肥分は、1800トン。順調に稼動中。
- ⑩「土肥こども園」は、海に近く、津波の心配あり。3歳以下を含む55人の避難には課題がある。今後、課題について、委員会提言をしていきたい。

経済建設委員会

(実施日 6月13日)

本庁委員会室にて、伊豆市経済アドバイザーである尾崎康弘氏より、赴任から9ヶ月の間の報告を受け、企業誘致、商品開発など、観光行政の推進について研修を行った。

- ・ 養殖アマゴのブランド化と商品価値を上げての販路開拓
- ・ 天城ふるさと広場に、アメリカのスポーツキャンプを勧誘交渉
- ・ 外国人向け低価格旅館のインターネット掲載協議
- ・ 台湾へ、シイタケ、ヒノキの輸出計画
- ・ 菌床シイタケの会社化提案
- ・ 伊勢丹相模原店での「伊豆駿河フェア」に、伊豆の加工品を出品
- ・ 香港へのワサビ輸出開拓
- ・ 合板建材メーカーへ、木材の活用を協議
- ・ 食堂チェーンへの乾しシイタケの販売開拓等

他にも交渉や協議中であったが、3月の震災の影響を受け、中断しているものも多数あるとの報告であった。

また、

「若い職員にノウハウを伝授している」

「この仕事に興味を持っている優秀な職員もいる」

「イベントを行うには、継続性を持つべき」

「伊豆市のマーケットは、一次産業」

「修善寺奥の院をもつとアピールし、修善寺温泉へ誘客を」などの意見も聞いた。



▲伊豆市 PR イベントの様子

議会改革検討委員会中間報告



▲中間報告をする木村委員長

「議会は何をしているのかよくわからない」という言葉に象徴されるように、議会は市民にとって、遠い存在になっています。

そこで、伊豆市議会では、市民に分かりやすい議会にするため、全議員が委員となる「議会改革検討委員会」を設置し、市民の代表としての議員の役割が十分に発揮できるよう、議会の改善に取り組んできました。

6月定例会初日に行われた中間報告のうち、主なものについてお知らせします。

一般質問

質問回数制限を撤廃し、再質問から一問一答方式を採用。また、市長等も議員に対して、質問内容を確認できるルールを取り入れた。

発言(質疑)

予算関連は、費用項目(款)ごとに分けて、2回ずつ再質疑ができることとした。また、臨時会の質疑・討論も、通告制とした。

委員会審査

新年度予算の審査については、2日間開催できることとした。また、委員外議員の質疑も、概要を記録する。

議員賛否

個々の賛否を公開する(『議会だより』にて掲載)。これにより、議員としての責任を強めることができる。

今後は、残された検討課題や追加課題について、引き続き調査・研究を継続します。また、先進的な議会の視察等を行い、「伊豆市議会の改革」を目指します。

議会傍聴・視聴について

本会議はどなたでも傍聴することができます。当日、本庁2階へお越しください。

団体の場合には、事前に議会事務局までご連絡ください。

(議会事務局 05558-7279906)

なお、傍聴に来られない方のために、インターネットを使い、生中継や録画中継を配信しています。日程や議案なども含め、市のホームページからご覧ください。

9月定例会の予定

- 場所 本庁2階 議場
- 時間 午前9時30分
- 9月1日(木) 議案上程
 - 6日(火) 一般質問
 - 7日(水) 一般質問
 - 9日(金) 議案質疑
 - 27日(火) 委員長報告
- 質疑・討論・採決

※変更となる場合がありますのでご確認ください。

編集後記

3月11日の東日本大震災を経験し、一般質問では多くの議員から災害対策や、防災に関する質問が出され、これから起こるであろう東海地震や災害に対する市の取り組みについて、真剣に議論をしました。

議場は、節電のためエアコンの設定は28度ですが、議員20人、市長ほか行政側10人、事務局3人に、多い日には傍聴者40人以上が窓のない議場に入るため、体感温度は30度を超えていると感じました。

議会としては、扇子・うちわの持ち込みの許可や、こまめに休憩を入れ、水分補給(各自持参・議場への持ち込みは不可)をすることで対応しました。

閉会中も各委員会が、所管の範囲で市民の安心安全を確保するための調査・研究をすることが重要だと感じました。

編集委員 飯田 正志